

24校・約3200人が体験したMoneyConnection 教育現場から高い評価を得ている5つのポイント

ニート予防をめざした金銭基礎教育プログラム「MoneyConnection」は、2006年10月からのパイロット展開を含め2007年8月までに24校で実施され、延べ約3200人の高校生がプログラムを体験。キャリア教育・進路指導に携わる先生方からも高い評価を得ている。教育現場が期待を寄せるプログラムの特長とは何か。5つのポイントにまとめた。

リアルな金銭感覚をワークで磨きながら リアルな進路選択を促すプログラム

●リアルな金銭感覚を磨く

ニート状態に陥る原因のひとつに挙げられるのが、若者のリアルな金銭感覚の欠如だ。それには、教育現場で「お金」がタブー視されてきたという背景がある。「お金」と「将来」のかかわりを学ぶ機会がないまま育った子ども達が将来の生活をイメージするのは難しく、それが安易な進路選択を招く要因にもなっていたのではないだろうか。

そこで「MoneyConnection」では、「お金の大切さ」「収入と働き方のバランス」などを考えるワークを通じて、リアルな金銭感覚を磨く機会を提供。職業の選択を真剣に考えるきっかけを与える。

●大人と触れあう場の提供

親や先生以外の多様な大人と触れあうことも、リアルな進路選択の一助になるとの考えから、ワークの際にはグループに数人のファシリテーターがはいり、自らの経験談を話したり、問いかけたりしながら、生徒と積極的に触れあう。数多くの会話のキャッチボールから、生徒達に「社会」や「働く大人」を肌で感じてもらう。



ゲームを使ったワークとディスカッション 生徒自身が主体になれるプログラム

●ゲーム感覚で参加できる

全員が参加できるワークスタイルで、通常の授業とは違う場を作り出している。さらにゲーム性を盛り込んだことで、高校生が楽しみながらプログラムに参加できる。働くこと・稼ぐこと、生活スタイル、自分の価値観を考え、将来の夢や進むべき道と真剣に向き合うきっかけをつくる。

●生徒が主体となるプログラム

通常の授業では、生徒は受動的に学び、答えは「正解」が与えられる。しかし、このプログラムは、答えを与える授業ではない。常に「どう思う？」と投げかけながら、生徒一人ひとりが自ら答えを導き出すのをサポートする。



●ディスカッションで多様な意見に触れる

グループワークやディスカッション方式をプログラムに取り入れ、他者の価値観に触れる機会を作っているのも特徴。違う価値観のもと、人それぞれ、めざす働き方や生活スタイルも違うこと、自分の将来を決めるのは自分なのだと感じてもらおうのが狙いだ。

プログラムの流れ

①「稼ぐこと」「働くこと」から、将来の生活をシミュレーションしてみよう！ ※1時限(50分)でプログラムを実施する場合

「一人暮らしに必要な生活コスト」を考えるワーク

一人暮らしにはお金がかかることを意識させる。

カードを使ったゲーム形式のワーク

働き方と収入から生活スタイルをシミュレーション。

グループディスカッション

10年後、20年後の未来をシミュレーション。ディスカッションを通じて、将来の働くこと、生活スタイルを考えさせる。

まとめ

将来を見据えて進路選択することの大切さを伝える。



②「ニーズ」と「ウォンツ」を知って、お金のバランス感覚を身につけよう！ ※2時限(100分)の場合にこのプログラムを実施する

グループワーク

さまざまな「もの」には相場があることを意識させる。

カードを使ったゲーム形式のワーク

将来をシミュレーションするカードによって「必要なもの」が変化することを実感させる。

グループディスカッション

「もの」について、グループ内で必要か話し合う。他の人の価値観に触れることで、「もの」の価値とは何なのかを考えさせる。

まとめ

「もの」を買うときには「優先順位をつける」「比較する」ことが必要であることを伝え、将来の生活と収支のバランスの大切さを意識させる。

「MoneyConnection」とは、日本で初めての試みとなる、ニート予防をめざした金銭基礎教育プログラムのこと。若者の自立を支援するNPO法人「育て上げ」ネットと、社会貢献活動として中学生・高校生向けのキャリアメンタリングプログラムを実施してきたGE Moneyが共同で開発した。プログラムや教材の開発にあたっては、玄田

有史教授(東京大学社会科学研究所)をはじめ、ニート研究や教育・金融の専門家、さらに高校の現場でキャリア教育に取り組む先生方がアドバイザーとして参加。プログラムの各種ワークを通して、お金の大切さ・働くこと・生活・自分の価値観を考えることで、若者達が自分の将来と真剣に向き合うきっかけをつくることを目的としている。

2007年9月 発行：特定非営利活動法人「育て上げ」ネット、GE Money(GEコンシューマー・ファイナンス株式会社)
お問合せ先：MoneyConnection事務局(NPO法人「育て上げ」ネット内) 〒190-0011 東京都立川市高松町2-9-22 生活館ビル3F TEL:042-527-6051 FAX:042-548-1368

NEWS
Vol. 01

MoneyConnection



ニート予防をめざした金銭基礎教育プログラム

開催回数：103クラス

実施人数：約3200名



これまでに24の高校でプログラムを実施しました。

プログラム実施校一覧(2007年8月31日現在)

東京都立芝商業高等学校(定時制)	埼玉県立妻沼高等学校	神奈川県立大和東高等学校
東京都立三田高等学校(定時制)	東京都立第一商業高等学校	東京都立八王子北高等学校
東京都立松が谷高等学校	東京都立三宅高等学校	東京都立東村山高等学校
茨城県立潮来高等学校	栃木県立壬生高等学校	東京都立多摩高等学校
私立愛国大学付属龍ヶ崎高等学校	東京都立小石川高等学校一橋分校(定時制)	埼玉県立狭山高等学校(定時制)
東京都立足立高等学校(定時制)	東京都立新宿高等学校(定時制)	神奈川県立川崎工業高等学校
私立千代田女学園高等学校	東京都立足立高等学校	東京都立農業高等学校
東京都立淵江高等学校	私立敬愛学園高等学校	東京都立青梅総合高等学校(定時制)

活動内容はホームページでも報告しています。 > <http://www.moneyconnection.jp/>

MoneyConnectionが学校に与える実社会の風と子ども達に芽生えるリアルな金銭感覚への期待

東京都教育庁 生涯学習部の梶野光信氏と森本恵美子氏のお二人に、“学校を実社会に近づける”ことをめざすセクションの立場から、ニート予防をめざした金銭基礎教育プログラム「MoneyConnection」導入が、学校や子ども達にもたらすと考えられるもの、そして現代社会と子ども達の問題点などについて語っていただきました。



プログラムがめざす、リアルな生活感覚に根ざした金銭基礎教育をどうお考えですか？

梶野光信氏(以下、梶野氏)「親や先生がお金の話をタブー視したところで、消費社会の現実、子どもを“消費者”として活用することに積極的です。おかげで子ども達は消費には関心があるものの、自立をするという観点では考えたことがない。自分で生活していくというイメージがないんですね」

森本恵美子氏(以下、森本氏)「MoneyConnectionのプログラムは、一人暮らしに必要な生活コストをはじめ、お金や生活のことを自分に結びつけて考えられる内容になっていますね」

梶野氏「収入と労働時間のバランスなど、働き方によって生活スタイルも変わるんだということをプログラムを通して子ども達に体験させ、リアリティのある生活感覚と金銭感覚を体の中に埋めこませることは大切だと思います」

MoneyConnectionのプログラムの内容や進め方をどう評価されますか？

梶野氏「ゲーム性を取り入れた点がいい。実社会のいろいろな場面を設定できるし、ゲームという形ならば、子ども達も楽しく、全員が気軽に参加できますからね」

森本氏「確かに子ども達も、ワイワイと楽しそうに参加していましたよ。擬似的ではあるものの、子ども達はその日に体験した設定で様々なことを感じとり、明日からすべきことを考えているように感じました。」

梶野氏「このプログラムでは、最初から答えを調べさせて教えるのではなく、『君たちはどう考える？』と投げかける。子ども達が主体的に考える場面を作っている点が評価できます。答えを導き出すプロセスと、他者はどう考えるかという思考も大切にしていますね」

森本氏「正解・不正解ではなく、様々な選択肢があるのに、それに気付いていない子どもが圧倒的に多い。MoneyConnectionは、社会では正解は一つじゃないということ気付かせる入り口になりえると思いました」

梶野氏「ただ、一回だけでは『楽しかった』で終わってしまう。観点を変えたり、教材を変えたりしながら、何度も見せていくことで学習していくと思う。せっかくの“気づき”を、次へどうやって結びつけていくかが肝心ですね」

MoneyConnectionを授業に取り入れるメリットについて、どうお考えですか？

梶野氏「社会は、考え方の違う人たちで構成されるところ。子ども達には、そこで折り合いをつけて生きる力を身につけてほしい。ところが、現在の子供達は、社会に多様な人がいることさえ見えていない。大人と触れあう機会が少ないからです。ですから、こうしたプログラムを通して外部の人が学校にはいり、親や先生以外の大人のモデルを見せること自体にも意義があると思います」

森本氏「MoneyConnectionの授業を見学した際、ファシリテーターが、どんどん生徒の間にはいってフランクに話しかけているのが印象的でした。また、通常の授業とは違う一面を見せる子がいて、“気づきの空間”になることも発見でした」

梶野氏「現代の社会は、“将来の社会の担い手”として子どもを育て上げようという意識や場が失われています。これを変えるのは、親や教師だけの力では難しい。だから先生達には、外部の人の力もうまく取り入れアレンジしていく、そんな教育活動を積極的に模索してほしいと思っています」



授業には「育て上げ」ネットのスタッフだけではなく、GE Moneyの社員も参加。社会人とのふれあいが、生徒にとって新鮮な刺激となっているようだ



PROFILE
梶野光信氏

東京都教育庁 生涯学習部 計画課 計画係 次席
社会教育主事



PROFILE
森本恵美子氏

東京都教育庁 生涯学習部
社会教育課 地域支援係



授業レポート／東京都立第一商業高等学校

「MoneyConnection」のワークに参加した高校生は何を感じ、どんな変化を見せるのか——。2007年3月22日に「東京都立第一商業高等学校」で行われた授業の様子から探ってみる。

生活に必要なお金や働くことを考えたら将来につながる今の大切さが見えてきた

3クラス同時に行われた授業に参加した生徒は約180名。各クラスに講師1名、ファシリテーター5名が加わった。プログラム前半の50分では、「一人暮らしに必要な生活コスト」を考えるワークや稼ぎ方／働き方のシミュレーションを。さらに後半の50分では、「もの」の価値観について考えていく。

生徒たちがまず反応したのは、生活コストの相場金額が発表された場面。想像以上にかかることがわかったからだ。ましてや税金や保険料は想定外だった生徒も多い。「足りない」「意外と高いんだ」という驚きの声や「親に感謝しなきゃ」という声も聞こえてくる。

次に盛り上がったのは、稼ぎ方／働き方から生活をシミュレーションするワークだ。「月収カード」の金額だけを比べ一喜一憂していた生徒達から、徐々に「収入がこれくらいでも、遊ぶ時間があるからいい」「月収30万円でも、1日



10時間も働いたら死んじゃう」などの声があがり出す。収入や働き方のバランスで生活スタイルが変わることに気が始める生徒達がいた。

後半のワークで、必要なもの、あればいいものについて話し合うと、「スーツなんていらない」など、高校生らしい率直

な意見も。しかし「会社にジーンズでは行けないよ」というファシリテーターの意見などから、今必要なものと、将来必要になるものは違うのだと理解していく。将来について考えるのを先送りする高校生にとっては、今の行動が「将来」につながっていることが新鮮な驚きとなる。

ワークを終えた生徒からは、「貯めてから使わないといけないと思った」など、「備えることの大切さ」に触れた感想が多く寄せられた。「稼ぐこと」と「使うこと」にスポットを当てたワークから、自ら「備え」の大切さに思い至った。将来をリアルに感じ、「今、何をすべきか」を考え始めたようだ。

活動内容はホームページでも報告しています。▶ <http://www.moneyconnection.jp/>

プログラムに参加した生徒・先生からの声

生徒

フリーターは通過点にした方がいいと思った。学校に行くためのお金を貯めて、その後ちゃんと仕事に就くべき。

将来、自分の希望に合った収入も考えて職業選択するために、高校生活を見直していきたい。

今は親の働いたお金で生活しているけど、自分一人でやりくりしていくのは無理だと思った。親に感謝！

稼ぐのは大変だけど、使うのは簡単だから、慎重に「もの」の価値を考えなければと思いました。

先生

ゲーム感覚で楽しみながら参加できる点が良い。教室の姿よりイキイキとやっている。

日常生活を“金銭”という観点から捉え直すことは、自分の人生や将来を責任を持って考えるという意味でとても有効。

生徒から「これでは生活できない」など意見が引き出せて役に立った。学校にいろいろな風が入るのはいいこと。

良かったと思います。目に見えにくい社会保険、税金の額など、意識を少し持てたと思います。

MoneyConnectionに興味のある方は、お気軽にお問合せください。

MoneyConnection事務局 (NPO法人「育て上げ」ネット内) Eメール: info@moneyconnection.jp TEL: 042-527-6051